

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200347		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホームお茶ばたけ神田		
所在地	佐賀県唐津市神田1209-10		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年1月25日	外部評価確定日	平成31年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有限会社 在宅介護お世話宅配便の会社理念である“関わり合って育ち合おう”の精神に基づき、家庭的な環境の下で日常生活の介助を受けることにより、安心と尊厳のある生活を営むことを支援します。
お客様ご自身の意志でできることを長く保っていただくために、畳の生活を基本とし、車椅子やベッドなどは使わない「地べたからの介護」に取り組むことにより、普段の生活の中で、全身の筋力や体幹バランスの維持・向上を目指します。
趣味活動の一環でもある「茶ばたけ合唱団」での手話や合唱など日常的活動や発表会で舞台へ立つ機会を通して、楽しみや喜びが増え、精神的安定と生活の活性化、お客様同士の良好な関係作りを目指します。
ホームでの生活だけでなく、地域の一員として社会参加を通して、老いてもなお経験、学習することがあり、自分の役割や社会へ貢献ができることがあるのだという想いを継続していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

代表者が想いを込めて創り上げた理念が職員に浸透し、実践している事業所である。利用者をお客様と呼ぶ意図には、利用者の尊厳や人として敬う事を理解してほしいと願う気持ちも込められている。日々の関わりの中で、職員はごく自然に利用者向き合い、共に暮らす家族のように見て取れる。また「地べたからの介護」では、毎日の些細と思われる動きの積み重ねこそが効果を生むと実感し、自信を持ってケアにあたっている。更に、24時間体制で、交代で来る次の職員のために今のケアをするという言葉には、連携の大切さを各々が自覚しているのが窺える。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「関わりあって育ち合おう」をスローガンとした会社理念を施設内に掲示。常に目に見えるようにしている。また、月に1回～2回スタッフ勉強会を行い会社理念の輪読を行っている。	法人全体で統一された会社理念「関わり合っ て育ち合おう」には、柱となる「お客様にと って」「スタッフにとって」「社会貢献」があり、常 に立ち戻る基本として浸透している。「地べた からの介護」を実践し、ごく自然に利用者に寄 り添いながら、「後で」「少し待って」等は聞か れない。勉強会等で意識付けを図り、三方良 しの精神を事業所に置き換えたケアは全職員 が共有しているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	地域の行事への参加や、法人全体で行うイベ ントへの参加を呼びかけ交流ができています。	自治会に加入しており、地域行事の餅つきや 鬼火焚きにも参加している。近所を散歩す る際にはゴミ拾いも兼ね、美化にも協力して いる。法人として行政から地域型在宅介護支 援センターを委託されているが、駐在員等から 各町内へ情報が周知されることで、当事業所 の存在も活用してもらえるよう期待している。 通りがかる住民と挨拶を交わし、積極的に地 域と関わり、繋がりが深まるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	地域運営推進会議等の中で、認知症の症状 や支援方法だけでなく、高齢者虐待や感染症 の予防等など、資料を基に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2か月に1回地域運営推進会議を行い、事業 所からの報告事項や地域からの意見につい て話し合いが出来ている。話し合った内容に ついては、スタッフ会議等で報告し、日常のケ アに生かしている。	近隣の同法人事業所と合同で開催している。 約一時間半、各事業所からの報告のみではな く、双方向な意見交換の場となっている。行政 側は代理でも出席者を出し、家族にも参加を お願いしている。メンバー同士が顔見知りとな り、相談し合う場面もみられる。貴重な時間 を活用し、感染症予防や認知症についてなど専 門知識を活かした話題も取り入れており貢献 にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者等へ運営や制度に関する疑問点をその都度確認することで、連携を取っている。	行政側には相談事も言いやすく、疑問点等にはまず電話を掛け、内容によっては出向くこともある。実直に対応してもらえる関係は築いている。大きな法人であり、部内には解決できる人材やスキルもあるが、行政側との連携は重要との認識から、問い合わせや確認を疎かにすることもない。また介護相談員も毎月訪れており、利用者との橋渡し役として期待している。公表される全体評価を見て、良い点を見習ったり参考にすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修に置いて知識の習得に努め、身体拘束を行わない。また身体拘束の指針を掲示し、常に目が通せるようにしている。	入居契約時には指針の説明を行っている。概ね、職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。仮に不適切なケアがあれば個人ではなく全体の事として問題提起され、全員で関わり方等の話し合いをする事になっている。また玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーの設置もない。行動は抑えないのが基本であり、職員の見回り等によって自由で安全な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において知識の習得、道徳性の向上に努め、虐待を行わない。さらに、虐待が見過ごされないように防止に努めている。また日々のケアの中では、常にお客様を敬う態度、言葉遣いを心がけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を受けている方、受ける必要がある方はいない。職員は外部研修や社内研修において知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者ならびにご家族へ十分な説明を行い、不安や疑問などに答え、理解・納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日々のかかわりの中で意見や苦情を聴取できるよう努めている。収集、聴取できた意見は職員全員へ伝達・共有し、改善策を講じている。	家族の来所は多い。毎月の利用料明細の送付時には、法人全体の様子が分かる「お世話便り」も同封されている。事業所では直接会話が出来る機会を大切にしており、近況を交えながら意見や希望も話してもらえるよう努めている。家族アンケートにベッド利用についての意見があったが、家族会等を利用し事業所の方針や「地べたからの介護」の効果を説明したいと考えている。真摯に向き合う姿勢と丁寧な説明を心掛けている様子が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案をできるような関係づくりに努めており、業務改善や意見・疑問について、その都度、話し合い対応を行っている。また、会議等の中においても意見や提案を聞くようにしている。	毎月の職員会議は19時から約2時間、休みの人も出席している。カンファレンスやモニタリング、勉強会等も組み込まれ、限られた時間をスムーズに進めるための工夫もある。レジュメ準備はもとより、事前の内容周知で各々が考えておく時間を設けていたり、取り上げてほしい案件を募ってもいる。また管理者としては働き易い職場であるよう日頃からコミュニケーションを大切にしている。顔色や表情から気付き、配慮することもある。代表者も現場によく出ており、職員の悩みにも気付きやすく、現場の声に耳を傾けている。自由に発言できる職場環境であり、意見には向き合う社風でもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、処遇に反映させるようにしている。また、給料支給時に管理者が給料明細を手渡し、相談や悩みを受ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の会社内勉強会を設け、ロールプレイ等により、職員全員の知識、技量の向上ができるよう取り組みを行っている。また、幹部研修会、外部研修会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会参加や施設の視察者・実習生を受け入れ、会社内の他事業所との交流の機会を持つことで、職員の研修並びにサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所についての説明を行い安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所についての説明を行い安心して利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族、担当の介護支援専門員などからの情報をもとに本人、家族を含めて関係者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている“関わりあって育ちあおう”に基づき、相互関係に努めている。掃除や洗濯物たたみ、調理・盛り付け等を一緒に行ったり、活躍等の経験談の傾聴により、作業のポイントや多くの知恵や知識等を学んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も介護者の一人であるという説明を行い、家族会等、会社・事業所・地域行事への参加を促し、職員とともに本人を支援していただけるように協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ定期的に便りを送付したり、希望時に電話などにより連絡をとれるように努めている。また、自宅への外出の付添もやっている。	利用者のこれまでの人や社会との関係が継続できるよう支援している。入居前に本人や家族との面談で把握した事、また担当のケアマネージャーや病院関係者からの情報も含め法人本社が把握している事も基になり具体的な支援に努めている。例えば、電話の取次ぎや年賀状を書いてもらう事、また盆正月の帰宅(宿泊も)や墓参り、法事への出席等も家族の協力を得て実現している。行きつけの美容院へ通う利用者もあり、行きたい、出掛けたい希望に沿って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を理解・把握し、一人一人が家族の一員としてお互いを支えあうような関係になるよう、さりげなく職員がサポートに入るように努めている。職員だけではなく誰かがそばにいてくれるという安心感を持っていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅支援センターや他のサービス事業者などとの連携により随時連絡、相談が受けられるように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の思いや言葉を傾聴し、係わりあうことで把握・実現できるように努めている。家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い支援につなげている。	利用者が想いを話してくれるのは、入浴中の寛いだひとときのように一対一でケアをしている時に多い。また朝陽を浴びながら足湯に浸かる肩が触れる位の距離感の時も同様である。職員は日頃から利用者の何気ない仕草や言動に敏感であり、それは把握にも活かされている。利用者から聞き取った事は日報に記し職員間で共有される。そこからケアプランへ反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族との面談を行い、関係者からの情報と併せて利用者についての把握を行う。また、入所後においても本人や家族との関わりや日頃のケアの中からも随時情報を取り入れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ない仕草や言動からも状態が把握できるように努めている。気付くことを心がけ、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じ介護計画の追加・変更を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は本人・家族より意見を伺い反映させるようにしている。また、職員全体により計画、モニタリングについて話し合い、作成している。	本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時の会話から汲み取っている。残存能力の維持と最期までここで願う家族も多い。サービス担当者会議にも同席してもらい、家族アンケートでは「分かりやすく説明を受け、一緒に話し合っている」との回答が殆どである。見直しの設定期間は6ヵ月毎としているが、変化があれば臨機応変な対応もある。日々の記録には独自の様式があり、全員分が一枚で確認出来る。長期短期のケアプランやバイタル、食事量に至るまで見やすく、記入もしやすい様式である。それらを基にモニタリング資料を作成し、毎月全員で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに個人記録を作成し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間での情報共有を図り、介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望により、買い物や外出支援を行っている。自宅への外出支援もやっている。また、手話を交えた合唱団を作り発表する機会を設けることにより、喜びと楽しみを感じられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのデイサービスと合同での消防署の消防訓練を実施したり、レクリエーション団体のボランティア慰問、地域の保育園園児の慰問活動を取り入れ、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診や定期的な受診により体調管理を行っている。緊急時は適切な指示を受けられるように連携を取っている。	入居前から通う医師に診てもらい利用者もあるが、入居後に協力医への変更を希望した利用者も多い。往診等のメリットを考慮し納得しての変更である。受診には家族が付き添うこともあるが、日常の様子は頻繁な来所がよく分かっており、医師との疎通も可能となっている。場合によっては先に職員が電話連絡しておくこともある。また職員のための付き添いでは、その結果報告は当日中に行われている。診療科目によっては病院を探すこともあるが、まず本人や家族の意向を尋ね、希望に沿った医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社内の看護師や受診・往診に関わらず、随時主治医又は看護師への状況報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との相談により状態把握に努め、事業所での生活状況や環境整備、医療連携体制等を相談したうえで、早期退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時書面により説明を行い、状態の変化に応じて適宜家族、かかりつけ医との話し合いを行っている。職員全体で勉強会の開催により共通理解を行っている。	「重度化した場合における対応の指針」があり、入居契約時に説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。看取りに関する職員教育にも努めており、看取り開始となれば改めて勉強会も開いている。容態の変化に応じて揺れ動く家族の気持ちも踏まえ、医師同席のもと、何度でも話し合いを重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に「緊急時対応」を取り入れ、訓練を行っている。マニュアル、緊急連絡網を活用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難・消防・通報訓練、避難経路の掲示、消防設備の定期点検等を行っている。また、訓練時には必ず消防署、地域の消防団に立ち会ってもらい、助言等を頂いている。	訓練は年2回行い、そのうち一回は消防署の立会いもある。昼間帯に実施し、夜間は想定のみである。徒歩数分の場所にある同法人デイサービス事業所は、訓練時は合同で行い、グループホーム側が被災すれば避難場所となる施設である。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器の使い方も承知している。一斉連絡網には地区役員(駐在員)の登録もあり、非常食や水、寒さを凌ぐ物の備蓄もある。訓練での指摘や反省点は速やかに改善され、全員に周知している。	前回の外部評価でも課題として挙げられていたが、緊急時には近隣住民の協力が不可欠であることを踏まえ、今後も近隣住民への声掛けを継続し、訓練への参加協力等をお願いされるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、利用者への言葉遣いや個人情報の取り扱いには十分に対応している。また、個人情報保護については、書面による説明・同意を得ている。	入居して間もない頃は同性による介助を心掛けているが、現在は家族のような雰囲気でのケアである。しかし、慣れた時間の中でも入浴やトイレの介助では特に配慮が必要なことを各職員が理解しており、周囲に見え難い立ち位置でのケアやドアは閉める等、当たり前的事として支援している。また個人情報の取扱いに対する職員の意識も高く、入居契約時には「個人情報利用同意書」を示し細かい説明の後に承諾を得ている。仕事から会話の中に個人情報が含まれる事があるが、声の大きさにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、実践できるよう関わりを密にし、職員による説明や必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活を継続できるように、一人一人のペースに合った時間が流れるように配慮しており、随時利用者の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に1回は必ず鏡を見るようにしており、利用者が主体となり時候に合った衣服などの身だしなみを行うことが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好みの物等を会話の中から聞き出したり、旬の物を献立に取り入れている。食材の買物、調理、配膳、後片付けを職員と利用者が一緒に行っている。また、職員も同じ食事を同じ食卓と一緒に食べながら見守りを行っている。	献立は、食べたい物を尋ねたり、冷蔵庫の中身から決まる事もある。家庭と同じである。利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えが用意される。食が細い方にはプリンなどや高カロリー剤の常備もある。出来るだけ自分で口へ運んでもらいたいとの思いから介助は最小限にし隣で見守っている。誕生祝いには手作りケーキを用意し、特別な日としてリクエストを尋ねるのが通例である。それがどこかへ行きたいという希望であれば、後日全員で出掛けている。職員も一緒に全員が掘りごたつを囲み、和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、食事量や水分量の把握・調整を行っている。必要な場合はかかりつけ医と相談し、量や内容の調整等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に適した口腔ケアを行っている。必要時には歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記録や排泄のサインの把握により、自立排泄の支援やおむつ外しを行い、パットの使用を最小限にし、時間ごとにさりげなくトイレへ誘導するようにしている。本人の不安や羞恥心、プライバシーへの配慮を心がけている。	排泄に関して自立している利用者もあるが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。トイレのドア横にチェック表を貼り、確実に記入している。そのチェック表を基にした適切な誘導やケアにより入居後に改善した例も多い。パットやオムツ類の使用枚数が減ることは費用負担の軽減にも繋がっている。「地べたからの介護」というケアが萎えていく筋力の維持に効果をもたらし、排泄の自立という相乗効果にもなっている。便座回りには手摺りの他にひじ掛け風のバーが両脇に設置され、立ち座りを助ける補助具として自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての理解は職員勉強会等を通じてできている。また、食事ならびに水分の摂取量の把握に努め、日常生活の中で適度の運動を行っている。必要時には主治医・看護師との連携で相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴が出来るように対応している。また、利用者の生活習慣や希望に添えるように対応している。冬季など寒い時期や希望時には足浴も行っている。	入浴は毎日提供され、時間帯も自由であり希望に沿っているが、殆どは午後からである。拒む利用者はいない。ひとりずつ入ってもらい、一対一のケアで寛ぐ中、想いを話してくれることもある。入浴しない日があっても下着肌着の交換は毎日行い清潔保持に努めている。またシャワーや清拭も臨機応変に取り入れている。脱衣場の隣りにトイレがあることで急な対応もでき、浴室と脱衣場共にある暖房設備はヒートショック対策にもなっている。脱衣場には安定感のあるベンチが用意され、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ職員は見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課にとらわれることなく、起床時間や就寝時間、昼寝等出来る限り本人のペースに合わせた利用者本位の生活を送れるようにしている。夜の安眠を誘う様、十分に日中活動支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を資料化することで随時閲覧把握できるようにしている。また、服薬の確認、症状の変化の確認、効能の確認を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活習慣や馴染みの事を取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出などにより楽しく気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、散歩や戸外活動を心がけている。利用者の希望に合わせて、出来る限り自由に外出が出来るようにしている。	利用者から外出の希望があれば、天候や体調をみて全員で出掛けることもある。予定された外出であれば一緒に来る家族もある。日常的に周辺への散歩や買物(食材も)、ドライブ等も多い事業所で、職員は日差しを浴びるメリットや五感の刺激も承知している。事業所内では車椅子を使わないケアが実施されているが、外出時には持参し状況に応じて使用することもある。屋外でのリスク回避である。利用者の想いに沿い、戸外へ出掛けることも当たり前の事としている。殆ど外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人の能力に合わせて管理を行っており、必要な時には随時使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に随時対応している。年賀状は出来る限り本人に書いて頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからテラスへ出るとみんなで朝陽を浴びながら腰を掛けて足浴を楽しめるようにしている。また、リビングルームは日当たりがよく、掘りごたつに座って落ち着けるようになっている。	自己評価に記されているように足湯が楽しめたり、掘りごたつの設えが特長である。足を下ろし座る姿勢、そこから出て立ち上がり歩き出す一連の動作は、生活の中で自然に行うリハビリでもある。週一回、利用者も一緒に行う掃除もまた筋力維持の基になっている。廊下の手摺りは敢えて付けず、利用者の動きには常に職員が寄り添い、見守っている。静かな住宅地の中にあり騒音は全くない。廊下には梁に結ばれたブランコがあるが、揺れる椅子に座ることは身体機能も刺激している。時折、サッシ戸を開けて換気をし、手を触れる箇所の消毒も年間を通してこまめに行っている。浴室やトイレ等もきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状態に合わせ、個人の居室の量にて個々がのんびりと寛ぐことが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、使い慣れた家具を持ち込んだり思い出の品を飾ることにより馴染みの空間を作れるようにしている。	居室は全て畳敷きである。ベッドを使わず、布団の上げ下ろしが必要だが、職員と一緒にやる利用者もある。そこかしこに「地べたからの介護」の取り組みが窺える。火気等の危険物以外に居室に持ち込む品物の制限はしていない。押入れがあり収納が出来ることですっきりと片付いている。職員は寝具の天日干しにも手間を惜しまない。写真付きで目標も記された表札は、家族によってデコレーションされたものもある。希望すれば居室での宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差を解消し、死角を出来る限り減らし、安心して能力を発揮できるよう配慮している。居室前には入居者本人の写真を飾るなど各自の居室を間違わないよう対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない